

令和7年度 学校評価 教職員「自己評価アンケート」結果について

- 目的 本アンケートは、児童や保護者の方々の意見の結果を活用し、桜ヶ丘小学校を「魅力あるよりよい学校」にしていくことを目的としています。
- 対象 桜ヶ丘小学校に在籍する教職員
- 方法 Google フォームによる回答
- 期間 令和8年2月10日投稿、2月18日を回答期限として実施
- 回答率 教職員 33/35名 94.2%

I 【知】 knowledge <確かな学力> 深く考える子の育成に関して

- (1) 「主体的に学び、自分の思いや考えを適切に伝え合うことができる子どもの育成～言語活動を軸とした授業づくりを通して～」を主題とした校内研究授業に取り組む。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
1	教職員	自分の考えを友だちに説明したり、友だちの考えを聞いたりして、学び合うことができるよう、授業づくりをしている。	93.3	90.9	2.4 ↓

※数値はできた・ややできたと回答した教職員の割合(%)を、R6・R7のセルの網かけの黄色は80%以上を桃色は90%以上を達成したことを表します。

また、増減欄の赤矢印は前年比増を青矢印は前年比減を表します（以下同様）。

○教職員は概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。本年度は公益財団法人日本教育公務員弘済会奈良支部様より学校教育研究活動助成をいただき、生駒市教育委員会教育指導課教育政策室主幹の若松俊介氏を講師として招聘するなどして校内研修を進めてきた。昨年度に第3次生駒市教育大綱が策定されたこともあり、個別最適な学びと協働的な学びの推進に向けた授業改善により一層取り組んでいきたい。

- (2) 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、オンラインで使えるグラフィックデザインツールのCanva等 ICTの効果的な活用を図る。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
2	教職員	タブレットなどの ICT 機器を活用することで、グループ学習等を取り入れた授業づくりに取り組んでいる。	73.3	60.6	12.7 ↓

○教職員は概ね達成していると回答する割合が60%にまで減少する結果となった。本年度は主幹教諭による自主的な教員の ICT 研修を積極的に行い、そこで研修したことを活かすなどの取組を行った。ロイロノート・スクール等の授業支援クラウドと併せて Canva といったグラフィックデザインツール等の ICT を最大限活用して、これまでよりさらに個別最適な学びと協働的な学びを推進させていきたい。また、本年度より本市児童生徒の iPad の利用が始まり、情報モラルについてもさらに留意していきたい。

なお、達成していると回答した教職員のポイントが昨年度より 12.7 ポイント減少しているのは、自主的な研修が進んだことにより教職員による活用が二極化したものと思われ、達成に向けたこれからの課題である。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
3	教職員	共に学び生活することを進めることにより、共に助け合い、支え合って協力しようとする態度を養うことに取り組んでいる。	90.0	97.0	7.0 ↑

○教職員は概ね達成していると回答する割合が昨年度より7ポイント増となる高い結果となった。これからも互いを認め合う相互承認の感性を大切に、協働的な学び等の学習活動や学校生活の様々な場面を通して、理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育てていきたい。

2 【徳】 moral 〈豊かな心〉 明るくやさしい子の育成に関して

(1)道徳等で、命を大切にしようとする心情を育む指導に取り組む。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
4	教職員	特別の教科 道徳などの授業で命の大切さについて指導している。	83.4	93.9	10.5

○教職員は概ね達成していると回答する割合が90%を超える高い結果となった。特別の教科道徳、国語、理科(生物分野)、生活科、保健体育、学級活動等の授業や食育等を通して、生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する心情や態度を育むことと併せて、存在を否定するような暴言や誹謗中傷への指導を徹底していきたい。

(2)縦割り班活動で異学年交流を促進し、自尊感情や自己有用感を高める。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
5	教職員	子どもの話を肯定的な雰囲気や聞くなど自己肯定感を高めることができるよう取り組んでいる。	96.6	100.0	3.4

○アンケートに回答した教職員全てが概ね達成していると回答した結果となった。縦割り班活動と併せて、教科における指導はもとより、あらゆる教育活動を通じて子どものよさやたとえ失敗したとしても挑戦したことを認め、励ます取組をこれからも続けていくことが大切である。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
6	教職員	たてわり活動の遊び等を通して、子どもの社会性を育むことができるよう取り組んでいる。	83.3	84.9	1.6

○教職員は概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。これからもたてわり活動の遊びや行事を通して様々な異学年交流活動によって人間関係を広めたり深めたりする中で、どの子どもよさを生かし、認め合い自己有用感を高めていきたい。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
7	教職員	児童が学校、家庭や地域で進んであいさつができるように指導している。	73.3	81.8	8.5


○教職員は概ね達成していると回答する割合が80%を超える高い結果となった。あいさつをすると、相手から返礼されることで、自分が認められたと感じることができ、児童の自己肯定感を高めることにつながるが、校区内や隣接地域での不審事案等の発生による影響もあり保護者の結果は80%を下回っている。これからは家庭においても自分から挨拶をする習慣をつけることで、子どもの積極性や主体性を育むことを目指していきたい。

3 【体】 physical health 〈健やかな体〉 心身ともにたくましい子の育成に関して


(1)体育科の授業等に握力や柔軟性を高めるストレッチを全校で積極的に導入し、併せてけがの予防にも努める。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
8	教職員	児童が安全に気をつけて廊下や階段を静かに歩くことができるように指導している。	83.3	94.0	10.7

○教職員は概ね達成していると回答する割合が90%を超える高い結果となった。本年度のけがの件数は昨年度より3割減っているものの、昨年度の災害発生率は全国(4.47%)や生駒市(6.36%)と比べると本校(9.10%)は依然として高い。廊下でのけがは走っている時に起こることが多いので、落ち着いて生活することと併せて廊下や階段での歩行の指導にこれからも努めていきたい。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
9	教職員	児童が安全に気をつけて登下校できるように指導している。	76.6	90.9	14.3 

○教職員は概ね達成していると回答する割合が90%を超える高い結果となった。地域ボランティアの方々による登下校時の見守り活動もあり子どもたちは安全に気をつけて登下校できているが、児童と保護者の結果に乖離が見受けられるので、これからも登下校時の安全指導に努めていきたい。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
10	教職員	体育の授業や休み時間に外で体を動かすことを通して、体力向上を意識した教育をしている。	76.6	81.8	5.2 

○教職員は概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。児童が外で体を動かすことに関しては夏の暑さも考慮しないといけないが、握力や柔軟性を高めることと併せて今後も児童の体力向上に努めていきたい。